

Model United Nations spreads among high school students

中高生が難民問題などを徹底議論 第3回ジャパンメトロポリタン模擬国連大会

生徒らが割り振られた国の外交官を演じて、国際的な問題の解決に向けた交渉を体験する模擬国連。論理的思考や協調性が身につくとされ、参加する中高生が増えています。発言や決議文書は英語が使われることも多く、語学力を鍛える一面もあります。

(金漢一)

“Delegates, please go back to your seats immediately!”
壇上の議長が木槌（きづち）をたたきながら参加者に着席を促すと、会場のところどころにできていた議論の輪が崩れた。国連加盟各国の代表役の生徒たちの中には、自席に戻りながら、まだ意見を言い尽くしていないとばかりに、遠のく相手と交渉を続ける姿も見られた――。

2月11、12日の2日間にわたり、川崎市の洗足学園中学高等学校にて「ジャパンメトロポリタン模擬国連大会」(JMMUN)が開かれた。2年前の第1回大会の参加者は3校約50人だったが、3回目の今回は25校約300人の中高生が集まった。

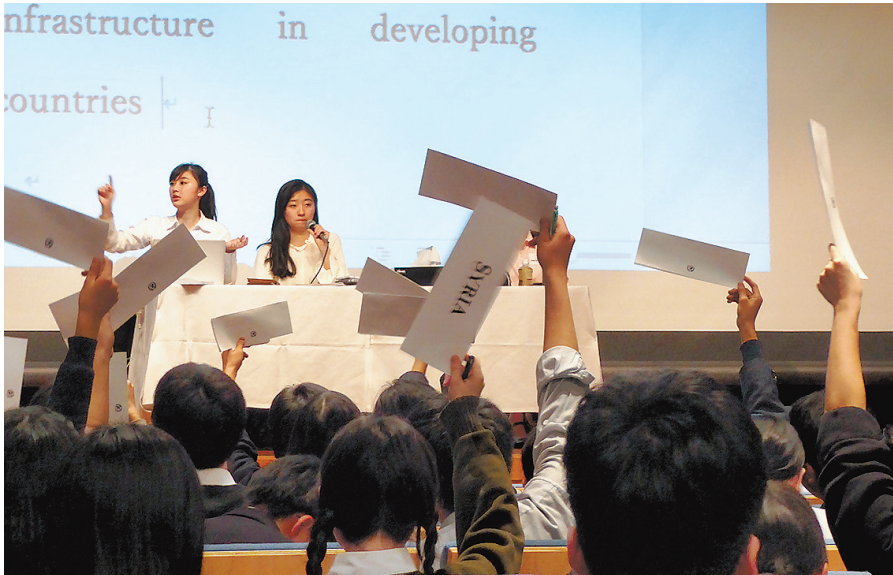
今大会の議題は、参加経験の有無や英語力によって分けられた。初級は「シリアの難民問題（Refugees in Syria）」、中級は「報道倫理と政治の透明性（Journalistic Integrity and Government Transparency）」、そして上級は「インターネット世代の先鋭化への対応（Combatting Radicalization in the Internet Age）」。

初級者会議には約150人が参加した。模擬国連を初めて経験する中高生が多い。

田園調布学園（東京）からは中3から高2までの20人が初参加した。高2の吉岡千咲さんと五島佑季さんは、スペインの外交官役を割り振られた。



模擬国連に備えて、各国代表の名札を準備する洗足学園中高のスタッフ＝2月8日、川崎市



各国代表の役割を演じる生徒たち。国名が書かれたプラカードをあげて、動議に賛成の意を表した＝2月11日、川崎市

校内での募集に手を挙げ、昨年末から、国連でよく使われるフレーズや、position paperと呼ばれる自国の立場や政策を論理的に記す文書の作成法を学びつつ、スペインやシリアについて調べてきた。



ジャパンメトロポリタン模擬国連の開会式であいさつする河野有沙さん＝2月11日

はじめは、シリアの位置も知らなかったという。会議に実際に加わり、他国と「交渉」してみたところ、「自分が考えていなかった意見にハッとさせられることがあった」と五島さん。吉岡さんは「（支援の方向性では）似たような意見が多い。より自分たちに近い国を探したい」と話していた。

昼食や休憩時間にも「水面下」の交渉は続く。意見の近い国や取り込みたい国と同席し、意見をすりあわせる姿が見えた。

中上級者と違い、初級者は会議すべてを英語で通すのが難しい。議長・進行役は、会議中に少しずつ英語の割合を増やしながらかも、大事な主張をうまく言えない場面では日本語での発言を許したり、英語が出てこない発言者の言葉を補ったりして、議論自体が

行き詰まらないように運営した。シリア支援から「イスラム国」へ話が及びそうになると、「その問題には別な決議案が必要」と自制させる場面もあった。

議長・進行役や運営は、洗足学園中高の生徒たちが務めた。同校では模擬国連の海外大会に出場した者も少なくない。議題も「活発な議論が期待できるもの」と生徒たち自身が考えた。中上級の議題には、仏週刊新聞シャルリー・エブド襲撃（2015年）などのテロ事件から受けた生徒たちの思いが反映されたという。

事務総長役を務めたのは、高2の河野有沙さん。中1から模擬国連を経験している。「海外の生徒たちはネゴシエーションに慣れているし、積極的。日本の教育は受け身の部分がある」と話した。開会式のあいさつでは、「高校生だって、将来、国を変えうる」と訴えた。

他の生徒も模擬国連を通じて「メディアリテラシーがついた」「ニュースをみたら、他のソースのニュースも見erようになった」と口をそろえる。事前のリサーチでは、各国の在日大使館に問い合わせをしたり、時には関係者を講演に招いたりもした。ある生徒は、インターネットが「（トピックによって）真実と思える情報が少ない」としながら、模擬国連によって本物を見極める視点が身についたと話した。

生徒の引率で来た神奈川県の学校の

模擬国連（Model United Nations）って何？

1923年に米ハーバード大で開催された模擬国際連盟（Model League of Nations）が原点。参加者が加盟国代表の役割を演じ、総会や各委員会を模した議論を通して、世界の諸課題解決に向けた交渉などを学ぶ。

日本では、のちに国連難民高等弁務官として活躍する緒方貞子さんが上智大教授を務めていた83年、ニューヨークで開催される大会に派遣するために団体を設立したのがはじまりだ。昨年11月には、日本で初めての世界大会が神戸で開かれた。

模擬国連では、割り当てられた国の代表を演じるため、その国の政策や議論のテーマについての事前リサーチが欠かせない。勝敗があるディベートとは違い、交渉して合意を目指す点が特徴だ。問題分析力や多角的視点、協調性などが身につく、発言や決議文書の執筆が英語で行われることが多いため、語学力の向上にも役立つとされている。

統括団体の日本模擬国連代表の中村有沙さん（上智大）によると、開催方法の指導などで高校へ赴く頻度が増えており、高校生の活動は近年、活発化している。大学生会員の数はここ数年、800人で変わっていない。

関西圏では91年に高校生レベルの模擬国連がスタート。2007年に全日本高校模擬国連が開かれ、15年と16年は参加応募数が200チームを超えた（1校あたり2チームまで応募可）。大学生は会議の進行や手続きで白熱することが多く、高校生はむしろ議論そのものに集中する傾向にあるという。

教員は「面と向かって議論するだけに、一度に他校の生徒と仲良くなれる。運動部の対抗戦ではないことです」と話していた。

大会を通してすぐれた交渉力を発揮した代表団に与えられる「Best Delegate」には、初級ではサウジアラビア（浅野中学・高等学校）、中級ではラオス（同）、上級ではイラン（海城中学高等学校）が選ばれた。

第3回JMMUN 参加校

浅野中学・高等学校	富士見丘中学高等学校	海城中学高等学校	攻玉社中学校・高等学校	武蔵高等学校中学校	洗足学園中学高等学校
田園調布学園中等部・高等部	広尾学園中学校・高等学校	鎌倉学園中学校・高等学校	晃華学園中学校高等学校	立教新座中学校・高等学校	聖徳学園中学・高等学校
同志社国際中学校・高等学校	自修館中等教育学校	京華学園中学・高等学校	工学院大学付属中学校・高等学校	聖光学院中学校高等学校	玉川学園中学部・高等部
盈進中学校・高等学校	東京女学館中学校・高等学校	慶応義塾湘南藤沢中等部・高等部	三輪田学園中学校・高等学校	清泉女学院中学高等学校	逗子開成中学校・高等学校
富士見中学高等学校					

国連決議で用いられる動詞表現（「模擬国連会議ガイドブック第3版」参考）

【遺憾の意を表する】 regret	【歓迎する・祝福する】 congratulate	【許可・授権する】 authorize	【期待する】 express its hope	【支持する】 support	endorse	proclaim	【非難する】 (strongly) condemn	【要請する】 call upon
【確認する】 affirm	【勧告する】 recommend	【決定する】 decide	【強調する】 emphasize	【承認する】 accept	recognize	【注意する】 draw the attention	deplore	invite
confirm	【感謝の意を表する】 express its appreciation	determine	【考慮する】 consider	acknowledge	encourage	note	【要求する】 demand	request
solemnly affirm		resolve		approve	declare	remind		urge